

### (3) 液体水素ジェット機に本腰を入れ始めた米政府

H E S S 会長 太 田 時 男

今年の4月8日のAviation Week 誌で、クレイグ・コボルト氏が、最近のホワイトハウスの航空宇宙政策について報じ、4月初旬にアメリカは次の新しいタイプの亜音速、および超音速の飛行機を開発することを重点政策として推進することにしたと言う。

これについては大統領科学補佐官 G. Keyworth 氏も認めており、また、先端国防研究計画局は「水素燃料の超音速 ramjet 技術」を大気圏と成層圏の双方にわたって開発すると提言している。水素エネルギー・システムの開発は、もともとの肝心な「水からの水素製造」については、石油価格の低迷から、いまひとつ意気が上らないが、水素を作業媒体に用いた金属水素化サイクル応用の空調機やこのような水素ジェット機開発の気運がむいてきたようである。

McGraw Hill のピーター・ホフマン記者からのニュースでは NASA では「オリエン特急」と称し、アメリカと日本、および中国間にマッハ3の500人乗り水素ジェット機の開発を考慮中という。これは、これまでの民間を中心としたプロジェクトとは異なり、アメリカ政府主導の計画であり、何れ、わが国へも政治レベルの打診があるものとみられる。

水素エネルギーの時代は空からやってくると私は以前主張してきたが、正夢になるかも知れない。なお、ホフマン記者はこうしたニュース雑誌を出したいが、日本で経済援助してくれるところがないかどうか探している。